

仮設暮らしのアウトリーチ

豊田市若園交流館



若園交流館 仮設外観



リモートでつなぐ地域の輪

公民館の沿革・年表

- ・昭和56年 4月開館
- ・平成18年 指定管理者制度が開始され、豊田市文化振興財団が指定管理者となる
- ・平成26年増築 エレベーター設置
- ・平成27年増築 コミュニティホール設置
- ・平成30年 社会教育法上の公民館から地方自治法上の公共施設へ位置づけを変更。
- ・令和2年12月～令和5年2月（予定）仮設交流館
- ・令和5年4月供用開始（予定）

左図・写真の説明等など（PRポイントなども可）

- 新館建替えに向けて、仮設交流館として運営
仮設施設になり、貸し部屋の減少や図書スペース、コミュニティスペースなどもなくなり、人が集いにくく、活動の場が少なくなった。しかし、地域内の他施設で事業を行うことで、新たな利用者の発掘、様々な人とのネットワークの構築につなげることができた。
- リモートでつなぐ地域の輪
コロナ禍においてもできる事業ということで、リモートによるイベントを開催した。交流館をメイン会場に、実演をリモート中継、サブ会場として自治区会館では、モニターを視聴しながら参加。親子連れや子供たちは安心して、楽しく参加することができた。

1. 都道府県名	愛知県	3. 公民館対象人口	14100人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN（Wi-Fi等）
2. 市区町村名	豊田市	4. 建物設置年月日	昭和56年4月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	200台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（豊田市文化振興財団） <input type="checkbox"/> その他（ ）				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1809人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7452人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 703人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 13558人（ロビー、子育てサロン等利用者）				合計 23,522人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 5人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人 <input type="checkbox"/> 非常勤 0人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 （職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 職員のうち社会教育士の数 0人） 合計 5人				
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他（若園交流館運営委員会）				
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援 <input type="checkbox"/> 自主夜間中学 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述（市民活動を促進し、市民活躍を支援するための、地域の「学びの場、交流の場、活動の場」）				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 豊田花園幼稚園、若園こども園、若園小学校、若園中学校、豊田南高校、トヨタ車体株式会社、若園地区子ども会、市民活躍支援課、地域保健課、豊田市社会福祉協議会 ほか				

豊田市若園交流館

OPEN 火曜～日曜日・午前9時～午後9時

TEL 0565-53-0028

HP

ph-wakazono@city.toyota.aichi.jp

SNS





1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

若園交流館が改築建設中でプレハブ仮設での運営であるという状況とコロナ禍で活動場所が制限される中、交流館（公民館）〈以降、交流館と表記〉として、「学びの場」「交流の場」「活動の場」をいかに確保していくか。

また、新設の交流館は若園中学校との合築であり、このメリットを最大限に生かすためにも、中学校との連携強化は必須である。

さらに、交流館に足を運べない方、定年退職後にどう地域と関わればよいか悩む高齢の方々に、いかに生きがいや、活躍の場を提供するかが課題である。コロナ禍で活動が制限される小・中学生の安全を考慮した取り組みも含め、地域での活動の継続や発展、活性化を支援する必要がある。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【中学生にボランティアの機会を！トライ★やるボラ若園（地域学校協働活動）】

●若園中学校では、地域学校共働本部（豊田市独自の名称）と交流館による中学生ボランティア制度が活発である。コロナ禍において、地域コーディネーターと交流館職員が連携し、中学生と地域が関わる機会を創出し、交流館主催のコンサートのプログラム台紙づくり、シトラスリボンの取り組み、地域の伝統をふまえた俳句募集事業などを展開。

●運営の工夫・・・活動に先がけて中学校でのオリエンテーションでボランティアの心構えを学んだ後に、希望者がボランティアの登録を行う。中学生の自主性や積極性を尊重し、求人票を掲示して、自分で応募する形としている。



中学生ボランティア
「トライ★やるボラ若園」

【仮設交流館からのアウトリーチ事業（防災、地域住民の活躍、活動支援）】

●交流館が改築建設中の仮設交流館であるため、施設外の出張コンサートをはじめ、防災講座、ドローン体験教室、星空観望会、健康麻雀大会など各種講座のアウトリーチ事業を実施。

●仮設交流館であることのマイナス条件をチャンスととらえ、これまで実施がなかった自治区会館や近隣交流館と共催し、場所を借りて講座や事業を開催。

●運営の工夫・・・自治区長や共催の事業担当者と打合せを密に行ない、相互の事情を理解し、コロナ対策など来場者が安心して参加できる環境を確保。出張コンサートでは、参加者の年齢層にあわせた選曲、中学生ボランティアにプログラムの台紙作成を依頼するなど多世代交流の機会にもつながった。



防災講座「親子でサバイバル
たき火&料理にチャレンジ」

3. 取組による成果や効果

交流館事業を交流館だけで行うのではなく、自治区会館などのより身近な施設での開催は、高齢者の外出機会を提供でき、身近な自治区会館には抵抗なく出かけられたと好評であった。コロナ禍で活動場所を探していた地元の演奏家の発掘、交流館を利用したことがない人への交流館事業の理解にもつながり、狭い仮設という不利な条件を克服できた。

また、コロナ禍での外出が心配されるなか、リモートによるイベントを実施し、複数の会場を中継しながら、イベントを実施することができた。マイナスの条件を克服した工夫は、今後の運営にも生かすことができる。



地域の人による、地域のための
音楽イベント「出張コンサート」

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 講座や事業終了後には、参加者アンケートを実施し、充足率、満足度の数値化。職員ミーティングでの意見共有。
- 市内28交流館で行う交流館全体研究集会での事例発表。好事例の横展開。
- 交流館の運営や課題について教育関係者をメンバーとする交流館運営委員会を年間2回開催し、意見交換をし、検証・改善を行う。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- あらゆる世代が、やりがいを持って学び、楽しく交流し、生き生きと活動できる拠点であるために、職員はコーディネート力を強化し、地域住民に寄り添いながら、それぞれの持てる力を発揮できるよう支援する。
- どこへ行っても「笑顔」で対応すること。

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

2年の仮設交流館期間に連携を深めた各種団体（地域学校共働本部、自治区、近隣交流館）とのネットワークを生かし、地域住民のニーズをとらえ、地域資源のさらなる活用を図り、若園交流館単独に限らない事業を計画。

令和5年度の新館開館を好機に、行ってみたい、参加してみたいと期待される事業を実施し、地域の活動拠点として、地域、学校、企業が一体となり、地域に愛着を持ち活動、活躍できることを支援していく。



新若園交流館